

AWS 秋の COST OPTIMIZATION 祭り 2025

AWS の FinOps、および コスト最適化に関する今年のアップデート

Shingo Horisawa

Amazon Web Services Japan G.K.
Technical Account Manager



自己紹介

堀沢 伸吾 (ほりさわ しんご)

アマゾンウェブサービスジャパン
テクニカルアカウントマネージャー

ISV/SaaS のお客様を中心に、クラウドの効率的な活用のご支援をしています

好きな AWS サービス
AWS Cost Explorer,
AWS Compute Optimizer,
AWS Support



アジェンダ

- FinOps とは
- AWS の FinOps
- FinOps と AI
- AWS の請求・コスト最適化関連のアップデート

FinOps とは

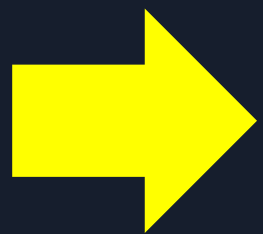
FinOps とは

"FinOps is an operational framework and cultural practice which maximizes the business value of cloud and technology, enables timely data-driven decision making, and creates financial accountability through collaboration between engineering, finance, and business teams."

(日本語訳) FinOpsとは、クラウドのビジネス価値の最大化、データに基づいたタイムリーな意思決定、エンジニアリング、財務、ビジネスチーム間のコラボレーションを通じて財務上の説明責任を生み出すための運用フレームワークおよび組織文化的なプラクティスです。

出典 : FinOps Foundation (<https://www.finops.org/introduction/what-is-finops/>)

非常に簡単に言えば・・・



クラウドから得られる価値を最大化するために
「みんなが」「協力して」「データドリブンで」
コスト最適化をすること

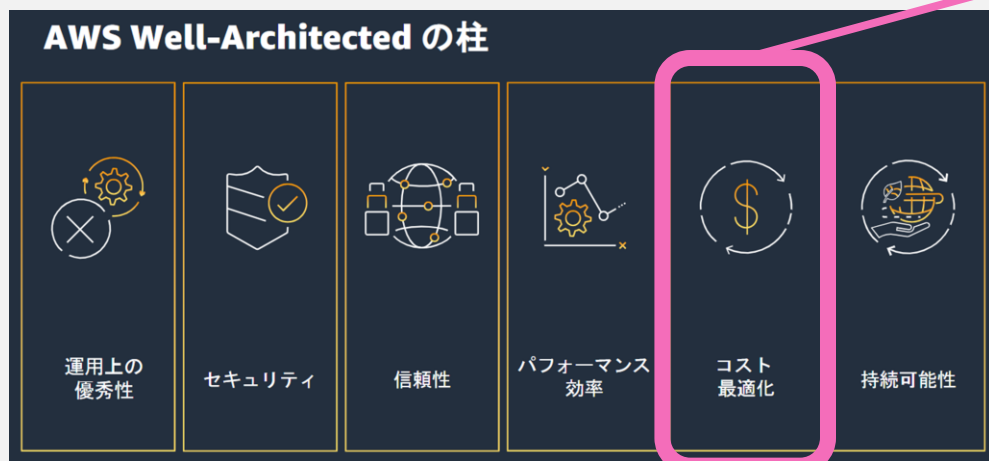


AWS の FinOps



AWS Well-Architected Framework コスト最適化の柱

5つの設計原則に従うことでコスト最適化を促進することが可能



5つの設計原則

1. クラウド財務管理 (CFM) を実装する
2. 消費モデルを導入する
3. 全体的な効率を測定する
4. 差別化につながらない高負荷の作業に費用をかけるのをやめる
5. 費用を分析し帰属関係を明らかにする

Design principles - Cost Optimization Pillar AWS Well-Architected Framework

<https://docs.aws.amazon.com/wellarchitected/latest/cost-optimization-pillar/design-principles.html>

Cloud Financial Management (CFM) フレームワーク

CFM フレームワークでは、4つの柱に沿ってアクションを実施します。



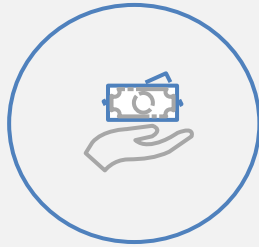
SEE (可視化)

アカウント戦略と
タグ付け戦略の実装

コストと使用状況に関する
レポートینگと監視

コスト配分

コスト効率およびビジネス
価値に関する KPI 設定と測定



SAVE (最適化)

アーキテクトとデザイン

クラウドの無駄を排除

最適な購入オプションの選択

最新のクラウドサービスでの
進化



PLAN (計画・予測)

動的な予算編成と予測

新規ワークロードコストの
見積もり

クラウドのビジネス価値を
定量化

クラウドと IT ファイナンス
管理を統合



RUN (FinOps の実践)

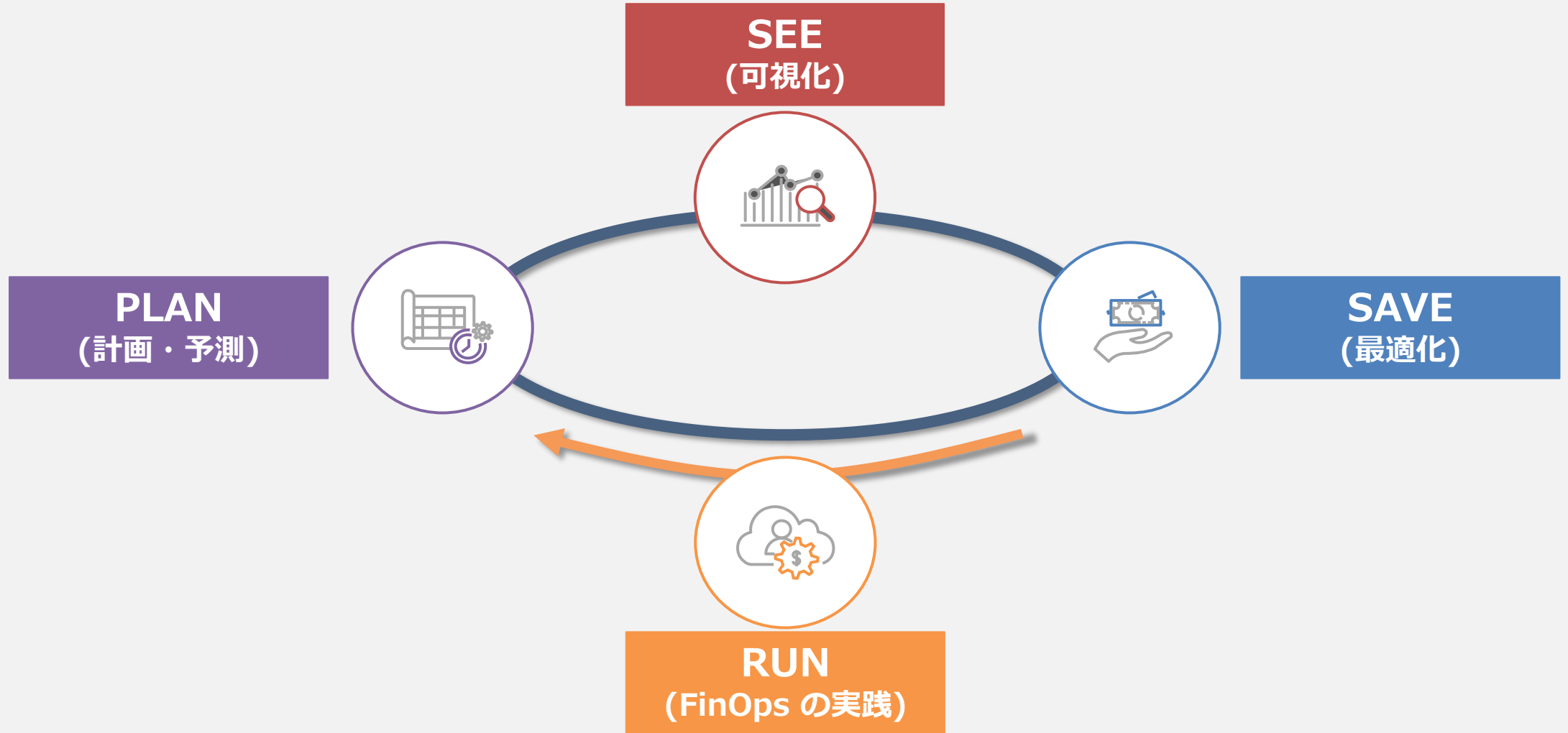
エグゼクティブスポンサーの
獲得

ステークホルダーのコストに
対する理解度の向上

クラウドガードレールの実装

プロセス、自動化、
ツールの進化

Cloud Financial Management (CFM) フレームワーク



Frugal Architect

The Laws of Frugal Architecture

Simple laws for building cost-aware, sustainable, and modern architectures



PHASE: DESIGN 「設計」フェーズ

- I. Make Cost a Non-functional Requirement コストを非機能要件にする ▼
- II. Systems that Last Align Cost to Business 長続きするシステムはコストをビジネスに整合させる ▼
- III. Architecting is a Series of Trade-offs アーキテクティングはトレードオフの連続である ▼

PHASE: MEASURE 「測定」フェーズ

- IV. Unobserved Systems Lead to Unknown Costs 観測されないシステムは未知のコストを生む ▼
- V. Cost Aware Architectures Implement Cost Controls コストを意識したアーキテクチャは自ずと制御可能となる ▼

PHASE: OBSERVE 「観察」フェーズ

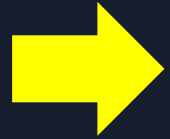
- VI. Cost Optimization is Incremental コスト最適化は継続的な改善の積み重ね ▼
- VII. Unchallenged Success Leads to Assumptions 成功体験への安住は思い込みを生む ▼

<https://thefrugalarchitect.com/laws/>

FinOps と AI

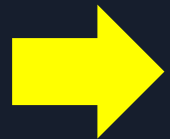
FinOps と AI

FinOps for AI



AI の利用によるビジネス価値向上

AI for FinOps



FinOps の実践への AI の活用

FinOps for AI ～AI の利用によるビジネス価値向上～

- ビジネス競争を勝ち抜いていくためには、AI をうまく活用して効率化や品質向上、新たな価値提供を行っていくことは必須ともいえる時代
- 一方、多くの AI サービスは従量課金制であり、過度な利用によるコスト超過が懸念される
- AI の導入や使用によって支出が過度に増えることは本末転倒

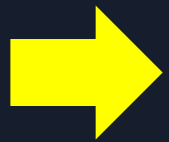
At least 30% of generative AI (GenAI) projects will be abandoned after proof of concept by the end of 2025, due to poor data quality, inadequate risk controls, escalating costs or unclear business value

- Gartner, Inc.

FinOps for AI ～AI の利用によるビジネス価値向上～

- 何をすべきか？

- AI を利用する際のコストの予測、配分、および可視化
- 使用するサービスやリソースの特徴・特性、およびユースケースを把握した上でのコスト最適化や統制



AI サービス特有の性質やユースケースは考慮するにせよ、CFM フレームワークのアクティビティをしっかりと行うことが重要

FinOps for AI ～AI の利用によるビジネス価値向上～

- 使用できる AWS のリソース

- CFM TIPS

- 「AI 利用にあたってのコスト最適化」の AWS ブログシリーズ

CFM TIPS (Technical Implementation Playbooks)

- コスト最適化のための実践的なベストプラクティス集
- AWS の各分野の専門家が、CFM フレームワークと AWS Well-Architected Framework の "コスト最適化の柱" を活用しつつ厳選

日本語にも対応しました！

<https://catalog.workshops.aws/awscff/>

CFM Technical Implementation Playbooks (CFM TIPS)

はじめに
文化の変革

- ▼ 基盤
 - 予算の設定
 - コスト異常検出モニターの設定
 - タグ付け戦略の設定
 - AWS Trusted Advisor のコスト最適化の柱の確認
 - AWS Compute Optimizer の有効化
- ▼ 可視化
 - AWS Cost Explorer
 - AWS Data Exports
 - Cloud Intelligence Dashboards
- ▼ サービスコスト最適化プレイブック
 - ▼ データベース
 - ▶ Amazon RDS
 - ▶ Amazon Aurora
 - ▶ Amazon OpenSearch
 - ▶ Amazon DynamoDB
 - ▶ Amazon ElastiCache
 - ▶ Amazon DocumentDB
 - ▶ Amazon Neptune
 - ▶ 分析
 - ▶ コンピュート
- ▼ Content preferences
 - Language
 - 日本語

CFM Technical Implementation Playbooks (CFM TIPS)

このワークショップでは、クラウドコストを管理し、異なるAWSサービスにわたってワークロードを最適化するための技術的実装を説明します。これらの推奨事項を最大限に活用するためには、AWSに関する200レベルの知識があることが想定されています。



CFM TIPSとは何ですか？

AWS Cloud Financial Management Technical Implementation Playbooks (CFM TIPS) は、組織内で効果的なクラウド財務管理機能を実装および改善するための完全なプレイブックです。

クラウド財務管理フレームワークとAWS Well-Architected Frameworkの**コスト最適化の柱** [\[3\]](#)を活用して、組織に特定の機能セットを実装するためのアクセスしやすい段階的なプレイブックを作成しました。これにより、継続的で自律的なコスト最適化とガバナンスを保証するメカニズムが実現します。

CFM TIPSは、CFMアクティビティのためのAWSの専門家によって厳選され、基準を高めたベストプラクティスのコレクションです。

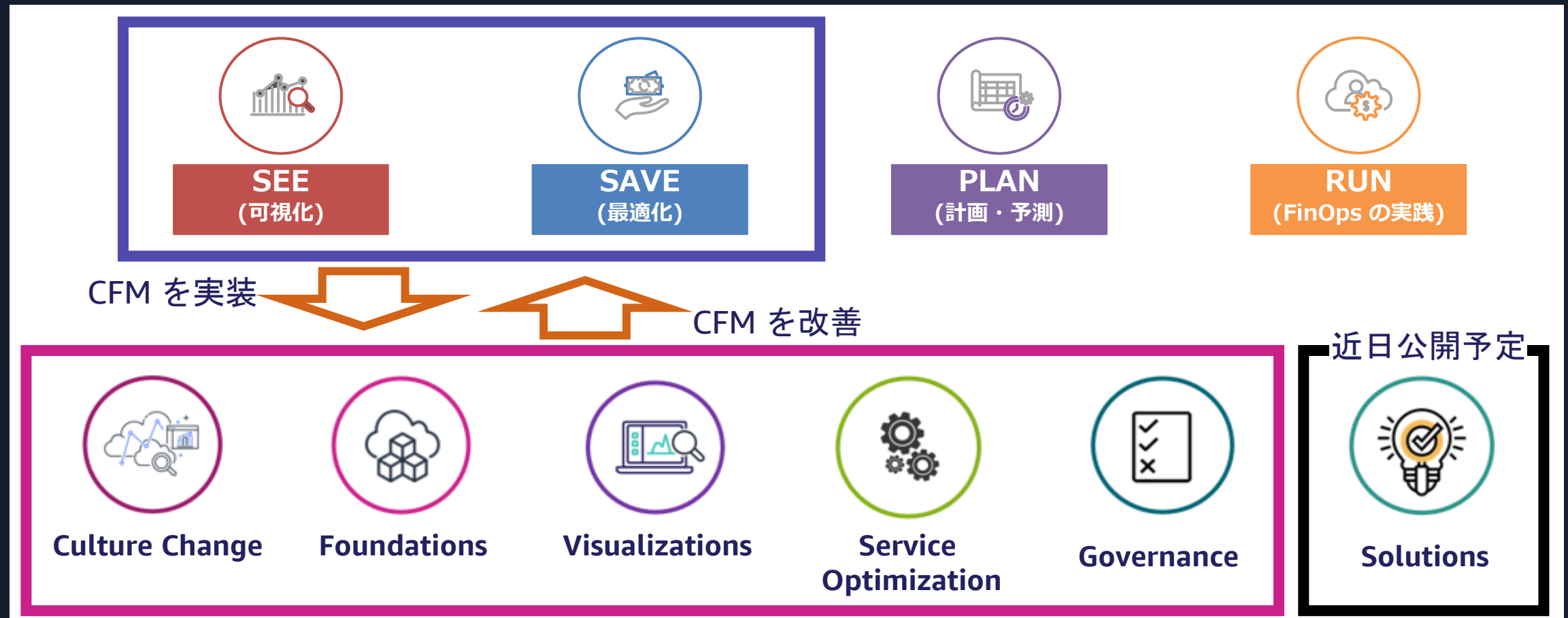
CFM TIPS (Technical Implementation Playbooks)

■ CFM TIPS の 5 本柱と主要機能

1.  Culture Change - コスト意識の組織文化醸成
2.  Foundations - タグ戦略、予算、異常検知の基盤構築
3.  Visualizations - CID ダッシュボード、KPI 設定
4.  Service Optimization - AWS サービス別最適化手法
5.  Governance - 非効率なアーキテクチャの予防・検知

CFM TIPS (Technical Implementation Playbooks)

■ CFM フレームワークとの関係



CFM TIPS (Technical Implementation Playbooks)

■ 「Service Optimization」で扱われているサービス

- データベース (RDS, Aurora など 7 サービス)
- 分析 (Athena, Redshift, Glue など 5 サービス)
- コンピュート (EC2, Lambda)
- コンテナ (EKS, ECS, ECR)
- モニタリングとオペレータビリティ (CloudWatch, CloudTrail, Config)
- AI/ML (Bedrock, SageMaker)
- ネットワーキング (VPC 等 5 サービス)
- コスト管理 (Billing Conductor 等 6 サービス)
- エンドユーザーコンピューティング (WorkSpaces)
- ビジネスアプリケーション (Pinpoint)
- セキュリティ (KMS, WAF 等 5 サービス)
- ストレージ (EBS, EFS, S3, Backup)
- アプリケーション統合 (Step Functions, SQS, SNS)

別セッション
でもご紹介

※ 対応サービスは今後さらに
拡充されていく可能性があります

Bedrock についてはモデル選択からプロンプトキャッシュなど、
SageMaker についてはインスタンスのサイズ適正化や推論戦略
の選択など様々なコスト最適化アプローチが紹介されています

「AI 利用にあたってのコスト最適化」の AWS ブログシリーズ

- AWS による生成 AI のコスト最適化 (2025.4.1)
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/optimizing-cost-for-generative-ai-with-aws/>
 - AWS における生成 AI のコスト最適化戦略と実装方法の包括的な解説
- Amazon EC2 と SageMaker AI による AI モデル構築のコスト最適化 (2025.4.8)
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/optimizing-cost-for-developing-custom-ai-models-with-amazon-ec2-and-sagemaker-ai/>
 - カスタム AI モデルの構築とデプロイに関するコスト最適化戦略
- Amazon Bedrock で 基盤モデルを使用する際のコスト最適化 (2025.5.19)
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/optimizing-cost-for-using-foundational-models-with-amazon-bedrock/>
 - Bedrock の料金モデル選択、モデル選択、キャッシュ機能などでコスト最適化を図る方法の紹介
- Amazon Q のコスト最適化 (2025.7.3)
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/optimizing-cost-for-deploying-amazon-q/>
 - Q の料金プラン選択、ユーザー管理、コンテンツインデックス最適化によるコスト最適化を解説

AI for FinOps ～FinOps の実践への AI の活用～

- コスト分析の複雑化とFinOpsチームのスケール限界
 - 膨大なデータ処理、手動分析の限界
 - 日常的な分析・サポート業務に時間を取られ戦略的業務の帯域幅が制限
- 専門知識の壁と技術的アクセス障壁
 - 開発者の FinOps 専門知識不足、専門 FinOps 機能の不在 (特に中小企業)
 - SQL やクエリ言語習得の必要性、非技術者の FinOps データ活用阻害

AI for FinOps ～FinOps の実践への AI の活用～

- 何をすべきか？

- AI / 機械学習による FinOps 業務の高度化と自動化
- 自然言語インターフェイスによるコストデータ活用の敷居引き下げ
- 予測的・プロアクティブなコスト管理



AI 技術を積極的に活用して
より精度の高い分析と効率的な運用を実現する

AI for FinOps ～FinOps の実践への AI の活用～

- 使用できる AWS のサービスやツール
 - AWS Cost Anomaly Detection
 - ・ ・ ・ コスト異常検出
 - コスト最適化ハブ、AWS Compute Optimizer
 - ・ ・ ・ コスト最適化レコメンデーション
 - AWS Cost Explorer (コスト比較機能)
 - ・ ・ ・ コスト変動分析
 - Amazon Q Developer / Kiro
 - ・ ・ ・ 開発・テスト・運用、
トラブルシューティングの効率化
 - AI エージェント & MCP サーバー
 - ・ ・ ・ 自然言語によるコスト分析
 - Well-Architected IaC Analyzer
 - ・ ・ ・ アーキテクチャの設計分析
 - Amazon Quick Suite
 - ・ ・ ・ BI プラットフォーム

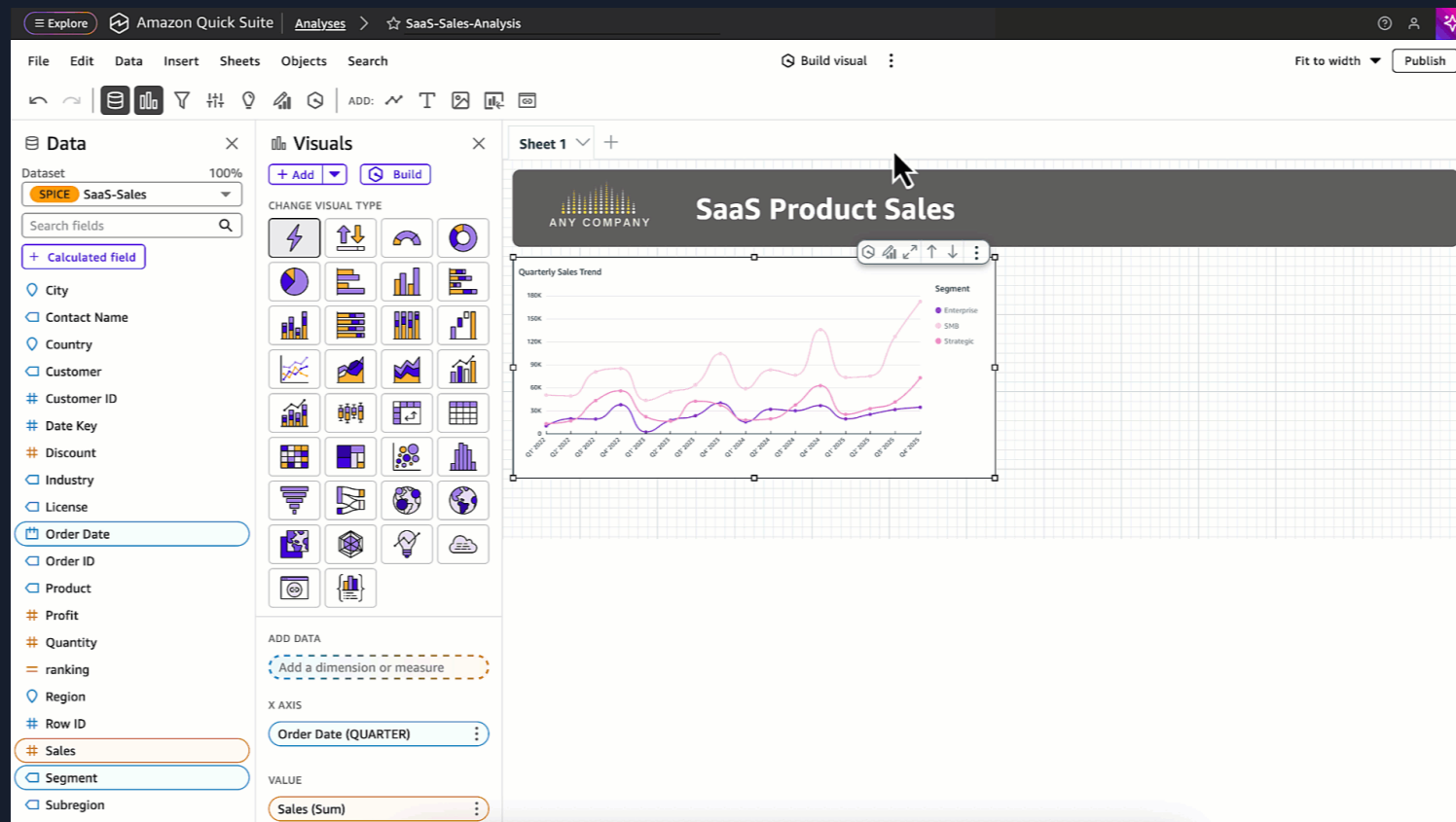
2025 年 10 月登場
(次ページでご紹介)

別セッション
でもご紹介

Amazon Quick Suite

～データの可視化・分析を強化する AI 搭載 BI プラットフォーム～

- Amazon QuickSight から進化した、AI 搭載の包括的ビジネスインテリジェンスプラットフォーム
- 自然言語でデータ分析・可視化・ワークフロー自動化が可能
- AI/ML の専門知識不要で企業データを活用



Amazon Quick Suite のセルフペースワークショップ

- セルフペースで Quick Suite を学んでいただけるワークショップが公開されています。
- ぜひご利用ください！

A Complete Guide to Amazon Quick Suite

- ▼ Getting started
 - AWS Event Setup
 - Self-Paced Setup
- ▶ Introduction to Amazon Quick Suite
- ▶ Unified Chat
- ▶ Spaces
- ▶ Research Agent
- ▶ Actions
- ▶ Flows
- ▶ Custom Chat Agent
- ▶ Quick Sight
- ▶ Knowledge bases
- ▶ Conclusion
- ▶ Learn more (Optional)

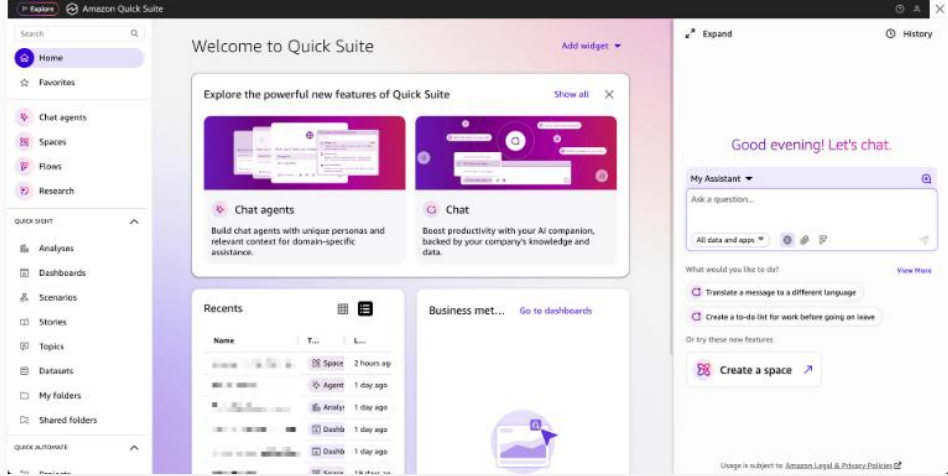
▼ Content preferences

Language

English

A Complete Guide to Amazon Quick Suite

Welcome to the **Amazon Quick Suite** workshop! This hands-on workshop will guide you through the key features and capabilities of Amazon Quick Suite using a practical business scenario.



Workshop Overview

Follow **Paulo**, Director of **Human Resources (HR)** at AnyCompany, as he discovers how Amazon Quick Suite can transform his daily work through AI-powered business intelligence, automation, and collaboration tools.

A Complete Guide to Amazon Quick Suite

<https://catalog.workshops.aws/amazon-quick-suite-workshop/en-US>

AWS の請求・コスト最適化関連の アップデート

2025 年のコスト最適化支援や請求関連の主なアップデート（1/2）

カテゴリ	内容	
コスト最適化 ハブ	Aurora データベースに関する推奨事項をサポート (2025.6.2)	Link
	リザーブドインスタンス と Savings Plans の割引を組み込んだ削減額の推定をサポート (2025.5.28)	Link
	Cost Optimization Hub が DynamoDB リザーブドキャパシティと MemoryDB リザーブドノードに関する推奨事項をサポート (2025.4.9)	Link
	EC2 Auto Scaling グループのアイドル状態およびライトサイジングに関する推奨事項をサポート (2025.2.6)	Link
Compute Optimizer	GPU インスタンスを使用するアイドル状態の EC2 Auto Scaling グループを検出をサポート (2025.6.16)	Link
	Aurora I/O-Optimized 構成の推奨事項をサポート (2025.6.2)	Link
	EC2 Auto Scaling グループのアイドル状態およびライトサイジングに関する推奨事項をサポート (2025.1.9)	Link
Pricing Calculator	強化された料金見積もりツールで割引と購入コミットメントを含む見積もり機能を一般提供開始 (2025.5.30)	Link
Cost Explorer	任意の 2 ヶ月間のコスト比較が可能に (2025.5.29)	Link

このあと
もう少し詳しく

2025 年のコスト最適化支援や請求関連の主なアップデート（2/2）

カテゴリ	内容	
Budgets	カスタム期間のサポートでプロジェクト固有の予算管理が可能に (2025.9.17)	Link
	請求ビューとの連携で複数アカウントにまたがるコスト監視が可能に (2025.8.7)	Link
	新しいコストメトリクスとフィルターによる除外機能の追加 (2025.4.29)	Link
Q Developer	自然言語による AWS サービスの料金情報取得とワークロードコスト見積もり機能を追加 (2025.10.8)	Link
	コスト最適化のためのパーソナライズされたレコメンデーションを提供 (2025.6.3)	Link
MCP サーバー	AWS Billing and Cost Management MCP Server を発表 (2025.8.22)	Link
	AWS Pricing MCP Server の提供を開始 (2025.7.15)	Link
請求	AWS がセルフサービスの請求書修正機能を導入 (2025.10.3)	Link
	複数の組織間でコスト管理データを共有する請求ビュー機能を追加 (2025.9.25)	Link
	カスタマイズ可能なダッシュボード機能を追加 (2025.8.20)	Link
	Payment Profiles で支払い通貨を選択可能に (2025.3.21)	Link
	請求書の支払いにバックアップ方法を設定可能に (2025.2.20)	Link

このあと
もう少し詳しく

このあと
もう少し詳しく

AWS Billing and Cost Management MCP Server

- AI アシスタント (Amazon Q Developer CLI、Claude Desktop、Kiro、VS Code 等) を通じて、自然言語でのコスト分析や最適化が可能に
- Cost Explorer、コスト最適化ハブ、Compute Optimizer、AWS Budgets、Savings Plans などと連携
- 標準 AWS 認証情報で最小設定により安全に接続

```
> AWS 支出に大きな変化や変動がないかを特定、定量化するために、2025 年 8 月から 9 月のコストを比較分析してください  
> 2025年8月と9月のAWSコスト比較分析を実行します。
```

```
• Completed in 4.251s
```

```
> ## 2025年8月から9月のAWSコスト比較分析結果
```

```
### 全体的な変動
```

- **総コスト増加**：\$263.48 (+5.1%)
 - 8月：\$5,193.40
 - 9月：\$5,456.88

```
### 主要なコスト増加要因
```

```
1. Amazon Q (+$122.78, +115.5%)
```

- 8月：\$106.30 → 9月：\$229.08
- 主要因：Q Business Enterprise Index の使用量が大幅増加
 - 使用時間：254.9時間 → 720.0時間 (+465.1時間)

```
2. Amazon EC2 Compute (+$170.76, +3.8%)
```

- 8月：\$4,477.97 → 9月：\$4,648.73
- 主要因：m5.4xlarge インスタンスの料金体系変更
 - 使用時間は減少したが、料金が増加 (Savings Planの適用状況変化の可能性)

```
### 主要なコスト削減要因
```

[Amazon Web Services ブログ] Billing and Cost Management MCP サーバーの発表 (2025.8.29)

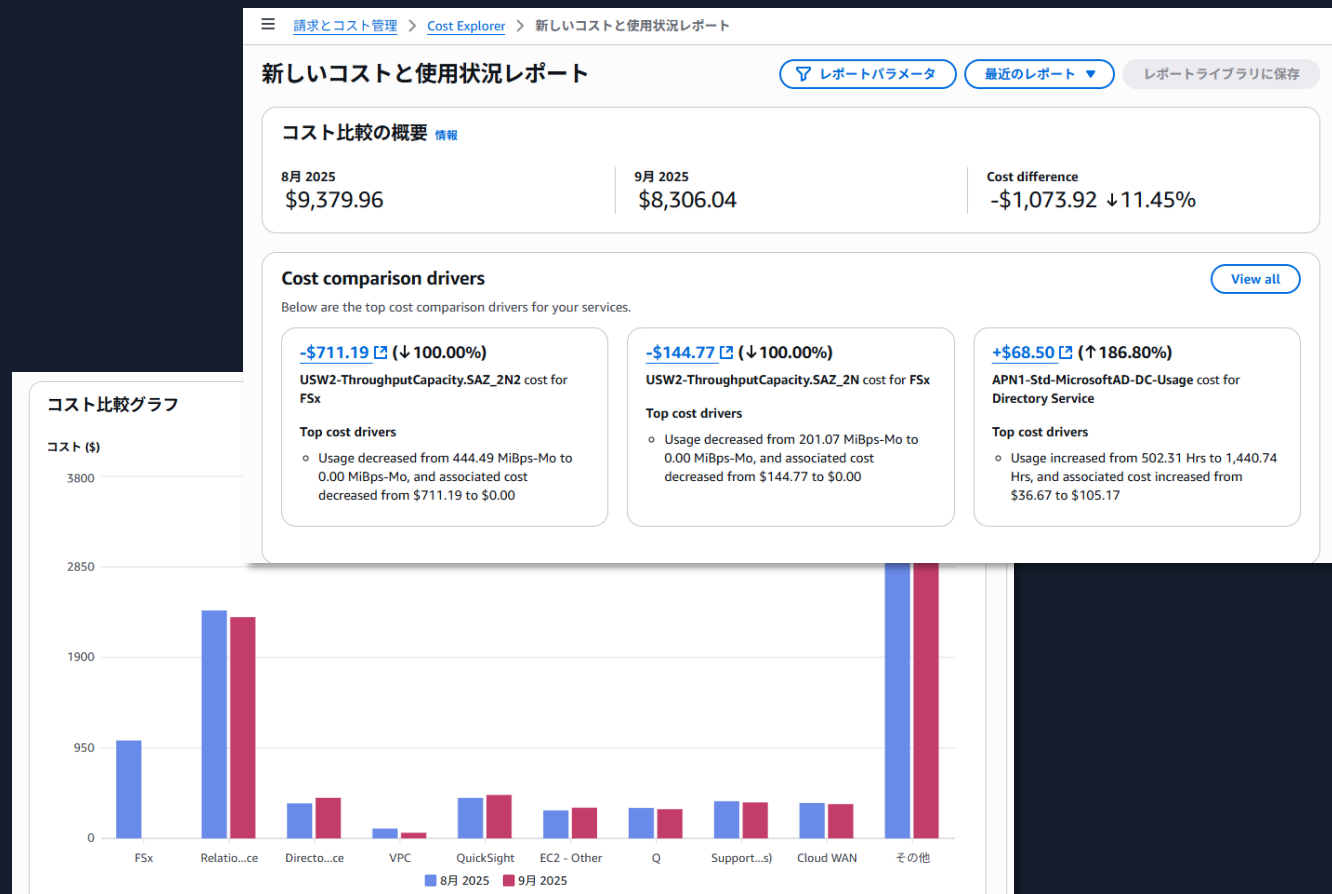
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/aws-announces-billing-and-cost-management-mcp-server/>

AWS Billing and Cost Management MCP Server

<https://github.com/aws-labs/mcp/tree/main/src/billing-cost-management-mcp-server>

Cost Explorer がコスト比較機能の提供を開始

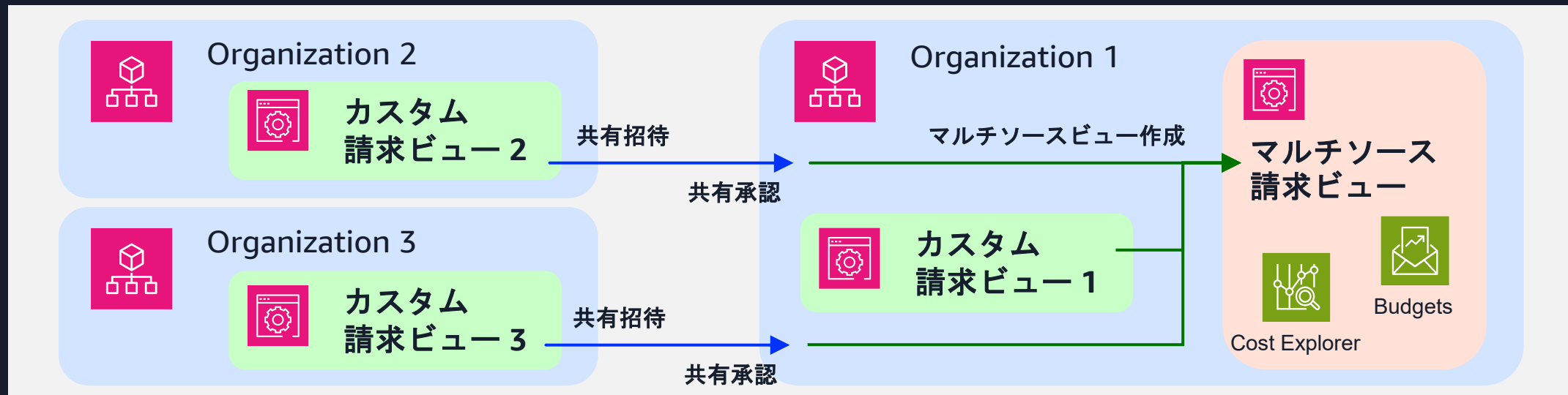
- 任意の 2 か月間のコスト変化を自動検出し、サービス、アカウント、リージョン別の最大コスト変動を特定
- 使用量の変化、コミットメント割引、クレジット適用などの具体的な要因を数秒で分析・表示
- 手動でのスプレッドシート比較やビュー切り替えが不要で、Billing and Cost Management ダッシュボードの "Top Trends (10)" ウィジェットからも直接詳細分析に移行可能



[AWS Cloud Financial Management] Quick MoM Cost Analysis with Cost Comparison in AWS Cost Explorer (2025.6.5)
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/aws-cloud-financial-management/quick-mom-cost-analysis-with-aws-cost-explorers-new-cost-comparison-feature/>

組織外へのカスタム請求ビューの共有と マルチソースカスタム請求ビューの対応

- 組織内で作ったカスタム請求ビューを、組織外のアカウントと共有することが可能に
- 複数の組織がある場合に、1つの組織の管理アカウントにその他の組織のカスタム請求ビューを共有し、そこで「マルチソースカスタム請求ビュー」を作ることによって、複数組織のアカウントのコストを1つのビューのAWS Cost ExplorerやAWS Budgetsから確認・管理することが可能に



[Amazon Web Services ブログ] マルチソースカスタム請求ビューの紹介 : AWS 上の複数組織にわたる統合コスト管理 (2025.10.27)
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/introducing-multi-source-custom-billing-views-unified-cost-management-across-multiple-organizations-on-aws/>

まとめ

まとめ

- 本セッションでは、AWS の FinOps のフレームワークである「CFM フレームワーク」について改めてご紹介しつつ、「AI の観点からの FinOps」についてお話ししました。
 - この観点については、続く 2 セッションでもお話しさせていただきます。
- また、2025 年に発表された請求やコスト最適化関連のアップデートについても、主要なものを少し触れさせていただきました。
- ご案内した内容が、お聞きいただいた皆さんのクラウド運用に少しでもお役立ていただければ幸いです。

Thank you!